



## 省エネへの思い再び

Again to Energy Conservation.

池内 弘\*

Hiroshi Ikeuchi

いよいよ、リオ・デ・ジャネイロでの地球環境サミットも間近となり、人類が未来の世に「かけがえのない地球」を引き継いでいくために、重大な決断の時を迎えている。今やあらゆる面で、日本は世界のトップリーダーとして自覚し、幾世代にも語り伝えられるよう決断し、リーダーシップを発揮していかねばならない。

地球温暖化防止のための、炭酸ガスの排出抑制は、火を発見し、自然界の数々のエネルギーを利用し発展してきた人類に対し、さらに高度な文明への革新を促すために、神が出してきた提案なのかもしれない。

炭酸ガスの吸収分離について、日本では数々の技術が研究開発され、その規模、その多様性からも世界最高レベルとなっている。しかし、分離した炭酸ガスの有効利用まで含め、確立した実用システムになるには20年をはかかると思われ、これが実用化してもエネルギーの有効活用、資源の保護などを積極的に支持するものではない。なんと言っても、最も確実な炭酸ガス抑制方策は「省エネルギー」である。省エネルギー実施こそ高度な文化が生むことのできる英知であり、神が望んでいる「文明の革新」の原動力であると思う。

日本における省エネルギーは、産業界を中心に大きな成果を挙げており、オイルショック後の産業界の国際競争力と日本経済の活力の大きな力となったことは御承知の通りである。私の属する鉄鋼業においては、1974年以来、30%（年率2%）に及ぶ省エネルギーを実施した。この成果は、ピーク時には総投資額の25%にも及ぶ莫大な省エネ投資を行ってきたということだけでなく、15年に亘って製鉄所における省エネ推進に直接間接に携ってきた私の印象からは、生産に係わる職場全員の「新技術に挑戦する」という理解と、絶えることのない毎日毎日の知恵と工夫が成し遂げてくれたと言っても過言ではない。全員が頭を切り換え、

ライフスタイルを変えて取り組んできた訳である。また、数千人の従業員を対象として、継続的な教育、現場での自主的な推進体制づくりと専門技術者のバックアップ体制の構築、また、全社、事業所、部課など各レベルでの成果に対する独自技術としての評価と表彰、など推進のためのトータルシステムを円滑に機能させることができたことが、大きな成果となったのである。

しかし、日本における「省エネルギー」のニュアンスは、特に若者には必ずしも「洒落て、カッコイイ」ものではなく、節約、儉約的な響きが先行し、果てはミミッチイ、セコイなどと堂々と言うギャルも出てきかねない。「地球にやさしい商品」を買い求める感度は高いが、毎日の生活でしっかりと省エネルギーを実践するのはどうも……、が実情である。しかしこれからは、そんなことを言っている時代ではない。

一昨年秋に出された「長期エネルギー見通し」では、2000年における一次エネルギーの供給可能量は重油換算約6億klとなっているが、これによると、6%の省エネが必要である。この数年のエネルギーの使用量の伸びを考えると、この6億klが大きく増やせないとしたら、恐らく10%以上の省エネが必要となろう。国民全員の強い関心が「省エネルギーの実践」に集められ、一人一人が、日常生活の中でさりげなく、着実に省エネルギーを行い、省エネルギー型の商品（使用のためのエネルギーが少ないだけでなく、製造から廃棄までに消費するエネルギーが少ないことを含めて）を買い求め、また、国や自治体の首長、議員選挙では、省エネルギー型の社会創り、地域づくり、が当確の争点となるような「高度な省エネ文明社会」が日本にできることを願っている。

省エネの重要性は、皆が認識しているにもかかわらず、仲々思い切った実行ができない。国、自治体でも、また、各界の指導者有識者もこぞって「省エネルギー社会の構築」「省エネルギーのためのライフスタイル変革」を言っているが、具体的な施策、運動の中味と

\* 住友金属工業(株)地球環境部長

〒541 大阪市中央区北浜 4-5-33

なると、まだ力不足と言わざるを得ない。10年20年計画を明確にし、人づくり、社会システムづくりを着実にしていかなければならない。省エネ技術の面でも、省エネ型人づくりの面でも、産業界が永年勉強し体得してきたものを是非活用していただきたいし、また積極的に活用していかなければならないと思っている。

住友金属では、地球温暖化防止の実行可能な施策は、まず省エネ推進と認識し、幾度も絞ったタオルを再び絞る厳しさに負けずに、「再び省エネ」をスタートしたところである。省エネ運動を通じ、全員が「かけがえのない地球」のために役立っていることに、満足感を持ってくれるよう、期待している毎日である。

## Information

## 「東京都立工業高等専門学校機械工学科 教員募集」について

### ・講師または教授

- |         |   |                            |
|---------|---|----------------------------|
| 1. 採用人数 | 1名  | 2) 教育・研究に熱意のある方            |
| 2. 担当分野 | 設計工学  | 3) 年齢が29才程度までの方。           |
| 3. 応募条件 | 1) 機械工学系の学科の出身者で、<br>修士以上の学位を有するか<br>または相当の能力・業績がある<br>と認められる方。 | (年齢は平成5年4月1日現在とする)         |
|         | 2) 教育・研究に熱意のある方<br>(企業経験があればなお可)                                | [採用時期] 平成5年4月1日            |
|         | 3) 年齢が32才～44才までの方   | [提出書類] 1) 自筆履歴書 2) 研究業績リスト |
|         |   | 3) 主要論文の別刷 4) 推薦書          |
|         |   | 5) 学部卒業または大学院修了証明書         |
|         |   | [応募期限] 平成4年6月30日(火)        |

### ・助手

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 採用人数 | 下記の各分野1名ずつ   |
|         | 1) 流体工学 2) 電気工学 3) 生産工学  |
| 2. 応募条件 | 1) 工学系の学科の出身者で、<br>修士以上の学位を有するか、<br>または相当の能力・業績がある<br>と認められる方。 |

### ■書類送付先及び問い合わせ先

〒140 東京都品川区東大井1-10-40  
東京都立工業高等専門学校  
機械工学科主任教授 石田 良男  
TEL 03-3471-6331(代)  
FAX 03-3471-6338